



全労連青年部ニュース

YOUTH TOPIC

つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページ<http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>ブログ<http://blogs.yahoo.co.jp/zenrourenpower>

奨学金シンポジウムを開催！

全労連青年部では、9月24日(日)定期大会後、昨年度から取り組んできた奨学金アンケートの結果の報告と奨学金問題を共有しようと「奨学金シンポジウム」を開催しました。シンポジウムでは、全労連青年部「奨学金アンケート」の報告と「奨学金制度をめぐる情勢と課題」と題し藤井和子さん(日本学生支援機構労働組合執行委員長)の講演を行いました。講演後は参加者から働きながら奨学金を返している実態や、奨学金制度の拡充の取り組みなどの発言を受けて討論を深めました。



働く現場から奨学金の現状を討論



実際に奨学金を返している青年労働者より「利子をなくしてほしい」「毎月3万3000円を返しているが、生活が厳しい」「お金を3回入金し忘れたらブラックリストに載ってしまう」など切実な声が発言されました。

医労連の青年からは、「リハビリでの職場で働いているが、入職してから身に着けなければいけないスキルがかなりある。有料の研修で知識をつけていかないと先が見えない。奨学金を返している人は、有料の講習に出づらく、同じように入職して働いていても、研修を受けられるかどうかで差が生まれる」と職場の状況を報告しました。

全教の参加者からは、「給付型奨学金制度が始まり、成績や非課税世帯を調べて学校から対象の生徒を選ばなければならない。給付型奨学金の業務を教職員が行わなければならないので負担も大きい」と発言がありました。

また、日本生協連と共にアンケートに取り組んできた生協労連の青年は、生協で働く青年のためにアンケートに取り組み、「奨学金の返済に追われている青年労働者のために、給付奨学金制度の学習の取り組みとともに、賃上げの要求に応える取り組みも行っていきたい」と決意が語られました。

奨学金の問題は労働者にとって切実な問題 さらに声を集め今後の取り組みに

シンポジウムでは、奨学金問題が労働者にとって切実な問題であることが共有できました。参加者からは、「たくさん現状が発信できたらいい」「社会的に取り組まないといけないと思った」「この問題は社会構造の問題(高学費、賃金の低さ、学歴で支配される社会)も大きい」などの感想が寄せられました。全労連青年部としては、今後も青年労働者の切実な声を集め、実態を伝え広げていく取り組みを進めていきたいと思ひます。



奨学金の会10周年プレ企画

11・8 奨学金の会 院内集會に参加

11月8日、参議院議員会館にて「教育無償化と給付奨学金の拡充をすすめよう！11・8 奨学金の会 院内集會」が開催され、教員や学生・青年、労働者など80人が集まりました。

三輪定宣千葉大学名誉教授（奨学金の会会長）より、「国際人権規約13条を巡る『2018年問題』とその課題」というテーマで講演が行われました。

全労連青年部五十嵐建一書記長は、全労連青年部奨学金アンケートの結果と奨学金シンポジウムの報告をしました。

以下、奨学金の会 NEWS NO.105 より抜粋

奨学金問題は青年労働者の重要課題

●全労連青年部

五十嵐書記長「青年部のアンケートでは最大で1600万円借りている人がいた。9月の定期大会後に、奨学金問題のシンポジウムを行った。その集會に参加していた青年医療労働者は「学校卒業後もスキルアップの研修でお金がかかる。学生時代に借りた奨学金の返済が負担になる。奨学金の問題は青年の身近な問題であり今後も取り組んでいく」



最後に長尾ゆり全国労働組合総連合副議長が「私たちの粘り強い闘いにより、実現させた給付奨学金だが、まだあまりにも規模が小さすぎる。報告された高校生、大学生、院生、青年労働者の実態に胸が痛んだ。三輪会長の講演は教育無償化の課題を人類の歴史上の課題としてとらえた、壮大な話であった。しかし安倍首相は教育無償化を改憲の口実に使おうとしている。権利としての無償化は憲法を活かす課題だ、学ぶことが権利だといえる場所が奨学金の会であり、共同の力をひろげて実現しよう」と閉会あいさつしました。



あと半年に期限が迫る「2018年問題」

その後、三輪定宣千葉大学名誉教授（奨学金の会会長）より、「国際人権A規約13条を巡る『2018年問題』とその課題」というテーマで講演が行われました。



三輪氏は「日本政府が国際人権A規約13条の中等・高等教育の無償化条項を批准した直後の2013年5月、同規約の履行を促す社会権規約委員会が、5年後の2018年5月迄に日本政府に無償教育の迅速な実行の勧告を行った。その起源はあと半年に迫っている」と「2018年問題」を紹介しました（講演概要は後頁）

学ぶために働き、学べなくなる大学生

●都内の大学生「学ぶことに対していつも成果を求められているなかで、学ぶことが権利だといえる集會に参加できてうれしい。いろいろなことを学びたいという希望をもって大学に入学したが、甘かった。学ぶためにはお金がかかり、奨学金以外にもアルバイトが必要になる。バイトに合わせて実習を組んでいる。学内でアンケートを行ったが、毎日深夜の居酒屋でアルバイトをしている人もいた。学ぶために働き、結局学べなくなっている。学費を下げる必要がある」

